

変わり雛にチャレンジ編

「犬でも、猫でも、
変わり雛ならOK!」



制作／岡本伸治
夢菓子工房 ことよ
三重県四日市市西日野町
4987・1
059・322・1226

本誌でも度々協力願っている岡本伸治さんといえは、独自のスタイルで書や画をものしていることでも知られる。お店のロゴマークやパッケージなどに描かれるほのぼのとした表情のお地蔵さんたちは、岡本さんの温かい人柄を彷彿とさせている。2014年に白梅店をオープン、2017年の全国菓子大博覧会の準備も含めて多忙を極めていたところではあったが、「カワイ雛祭りのお菓子」をテーマに仕上げてもらったのが今回の作品である。

男雛と女雛、そして犬バージョン、猫バージョン。これらは、いわゆる「変わり雛」と位置付けてもいい。
「変わり雛」は江戸時代の後期から雛人形の流行につれて、変わった材料や、変わった形をした雛が出現。各地に発生した「郷土雛」にその例がみられた。明治期になると、一見関係のないような品を、男雛、女雛に見立ててふたつ並べた「見立て雛」が「変わり雛」の主流になる。いずれにせよ、その歳の干支に因んだもの、たとえば2016年は「サル」になるし、野菜でも花でも、また、社会風俗や世相を写したモチーフまで、極論すれば見立ては自由自在であ



る。
わんこ雛とにゃんこ雛は、それぞれ男雛には烏帽子、女雛には冠をかぶせたもの。たったそれだけを付加しただけで見立てられることが、ある意味驚きではある。雛人形の衣装について解説したのも、どのような装束なのかを知ることによって、何を特徴としてシンボライズするかが見えてくるからである。それにしても、犬も猫も実に愛らしく、食べるのがかわいそうに思えるほどである。カワイ雛は人間バージョン。菱にゃんこは菱餅に見立てたお菓子の表面に、猫の肉球をアクセントに付けたもの。にゃんこ雛とセットにしたい。
貝雛は貝合わせをモチーフにしたものだが、男雛がいてもよかった。愛くるしい変わり雛。花ぼんぼりは、まさに雛祭りに花を添えるような華やかな印象の意匠に仕上がっている。どの雛たちと組み合わせても華やいで見える。ももは言わずもなで色も形も雛祭りのシンボル。桃に目鼻でこちらも変わり雛が可能。他に写真ではディスプレイ、セット例など紹介した。

わんこ雛

にゃんこ雛

カワイ雛